

## 第1回 上牧町第5次総合計画審議会 会議録

【日 時】平成27年8月31日（月）13:30～15:30

【出席者】22名

【欠席者】3名（杉本委員、安居委員、木田委員）

【傍聴人】1名

【事務局】町職員：5名（爲本部長、松井課長補佐、俵本係長、野村主査、日高主事）  
コンサルタント：2名（ランドブレイン株式会社 山北、月山）

### 1. 開会

（事務局挨拶）

### 2. 町長挨拶

- ・今後、皆様に第5次上牧町総合計画を策定していただく。第4次総合計画は平成19年から10年間の計画であったが、時代の大きな流れの変化とともに内容が現状にそぐわなくなってきた。
- ・午前中に人口ビジョン及び総合戦略の審議会を開催したが、総合計画と人口ビジョン及び総合戦略は整合性を持たせる必要があると言える。人口ビジョン及び総合戦略は平成27年度末までに、総合計画は平成28年度までの2ヵ年をかけて策定することになっており、総合計画のほうがボリュームが大きいわけだが、総合計画の施策には人口ビジョン及び総合戦略の施策も含めていく。
- ・各計画の位置づけとして、総合計画では上牧町の夢、将来像を定める大きな計画である一方、人口ビジョン及び総合戦略は現状の人口規模や出生率等から今後の上牧町を維持するために必要な施策をまとめた計画である。皆様にはそれぞれの計画に何を定めるかをご理解いただき、総合計画と人口ビジョンは整合性を持たせる必要があることを考慮して議論していただきたい。
- ・日本創生会議が提言した消滅可能性都市に上牧町も含まれていたが、今後の上牧町を考える良いきっかけになったと理解している。国からは上牧町もこのままでは人口が減り存続できなくなると心配してもらったと勝手ながら捉えている。
- ・上牧町が今後どんなまちになりたいのか、なっていくのか、皆様には夢を持って議論していただきたい。

### 3. 委嘱状交付

（町長より各委員へ委嘱状交付）

### 4. 委員紹介

(各委員自己紹介)

(事務局紹介)

## 5. 議題

### (1) 会長・副会長の選出について

(会長・副会長の選出について事務局より説明)

(中山会長・鶴谷副会長の選任)

(中山会長挨拶)

- ・総合計画ということで午前中の人口ビジョン及び総合戦略とは違い、幅広い議論になる。
- ・総合計画は町の今後 10 年間の方向性を決める重要な計画になるが、計画ができて終わりではなく、計画策定の過程が大切だと考える。特に、町民や若手職員にも策定過程では参画していただき、上牧町の将来について議論していただきたい。
- ・策定する過程では町民が関心を持てるような計画づくりが大切だと思う。そのため、委員の皆様からは様々な立場から意見を出して欲しい。つくる過程を重視する審議の進め方をしたいと思う。

(鶴谷副会長挨拶)

- ・総合計画の重要性は授業等で学生にも話している。
- ・3年ほど前から総合計画は各自治体が自主的につくる計画になった。上牧町においては、制度が変わってからはじめて策定する総合計画だと理解している。
- ・委員の皆様には、計画について議論していただくだけでなく、計画の周知をしていただくとともに、計画に基づいて継続的に実行するところまでご協力いただきたい。
- ・総合計画は長期的な計画になるが、計画した内容を継続して取り組んでいかななくてはならない。そのため、委員の皆様には策定後に実行する姿をイメージしながら議論して頂きたい。

### (2) 総合計画を取り巻く現状及び同計画策定の基本方針について

事務局： (資料3について説明)

中山会長： 第2回までに、審議会として今日決めておくべきことはあるのか。

事務局： 総合計画の構成イメージについては本日議論していただき、決めていただきたい。計画の中身の詳細については今後審議していただきたい。

中山会長： 委員の皆様からご意見・ご質問があればご発言いただきたい。

川本委員： 本日参加した公募町民の委員は、上牧町のまちづくりに対して、日常的な感想がたくさんあると思う。それらを拾って、計画を体系化していったほうが

よいと思う。

事務局： 本日の会議では、町民の方々が思う事をご自由にご発言いただければと思う。

小島委員： 第4次総合計画の達成できた目標と達成できなかった目標を教えてください。

事務局： 第4次総合計画の達成度について各担当課にヒアリングを実施する予定である。結果については次回の審議会でお示しできればと考えている。

中山会長： 3頁の枠組みも第4次総合計画を踏まえて設定されているが、第4次総合計画の達成状況を踏まえて検討する必要があると思う。次回、現計画の達成度が出てきてから議論していただきたい。

町民の方は普段思うことをご発言いただき、団体の方は団体の目から思う事を、議員の方々には町全体の事についてご発言いただきたい。

江川委員： 資料3の3頁に基本構想のまちづくりの目標として、「●●なまち」とあるが、現計画の「さわやかリビング上牧」等に相当するものなのか。

事務局： そのとおりである。第5次では端的な表現にしたいと考えている。

江川委員： 現時点では決まっていないということか。

事務局： アンケート調査や町民ワーキング会議、若手職員等の会議で出た意見をもとに、策定委員会で目標案を作成する。それを審議会に提示するので、その上でご審議いただきたい。

このまちづくりの目標が多いと総花的な計画になってしまうので、的を絞った目標案を検討していく必要があると考えている。

中山会長： 計画策定の視点とまちづくりの目標は違うのか。

事務局： 視点についてはあくまで町側の策定にあたっての視点であり、まちづくりの目標は、視点に加え、アンケート結果や審議会のご意見を集約したものを設定する。

川本委員： まずは身近な意見を出し合って方向性を検討したほうがよいと思う。

高橋委員： 子どもがいるため、学校教育について視点がいく。  
第4次総合計画には課題が記載されているが、そのとおりだと思う。上牧町の学校施設は老朽化が進んでいる。特に第2小学校のプールでは塗装が剥がれ浮遊しており、子どもの体内に入る危険性を感じる。  
総合計画には学校教育について記載されているが、小さな町で児童数が減っている中で、3つも小学校が必要なのか保護者の中でも話題になっている。施設が老朽化し、児童数も減っていく中で、財政状況を考えると小学校数を減らすことも考えられる。第4次総合計画でそのような将来的な見通しを検討したのか。また、計画が進んでいるのか。

東委員： 計画の進捗状況については、事務局でまとめて次回に報告があると思うが、第4次総合計画では実施計画はつくってこなかった。そのため、これまでの町の事業で10年間かけてステップを踏んで実施するということはほぼ無かった。  
学校が老朽化していることはもちろん議会でも取り上げている。  
上牧町は第4次総合計画で基本構想までは作ったが、実施計画はつくってこなかった。実行に移せていないということは、実施計画を策定しなかったことに問題があったと理解していただきたい。そのため、今回の第5次総合計画ではしっかりと施策ごとの方向性や成果指標、施策の展開方向などを記載し、実効性のある計画にしていきたいと考えている。

堀内委員： 議論がかみ合わない部分もあるので、資料4の今後の進め方についても説明してもらったのち、併せて議論した方がよいと思う。

中山会長： 堀内委員から提案があったので、進め方についても併せて議論することとしたい。  
資料4について事務局より説明をお願いします。

事務局： （資料4について説明）

江川委員： 人口ビジョンでは人口減少を食い止めるという目的がはっきりしているが、総合計画は幅が広すぎる計画である。意見を言うにもまちづくりの目標がはっきりしているほうが議論しやすいが、そのような土台がすでにあるのか確認したい。

事務局： 3頁はあくまでもイメージであるため、今後、町民ワーキング会議やアンケート結果などを踏まえて目標を設定していきたい。

町としては教育福祉について重点施策にしていきたいということから、策定にあたっての視点として教育福祉を掲げている。

策定における基本的なスタンスとしては、住民の意見を反映させ、住民と協働で決めていきたい。

江川委員： 今日委員として自由に発言して良いのか。

事務局： 今回はご自由にご発言いただきたい。

審議会としては、今後、町民ワーキング会議やアンケート、策定委員会などの意見を踏まえて計画案をつくっていくので、その内容について審議していただきたい。

竹島(成)委員： 審議会は個々の思うことを言い合う場ではないと思う。住民ワーキング会議等で積みあがってきたことを審議して町長に答申するのではないのか。

高橋委員： 先ほど細かいことを言ってしまう誤解を招いてしまった。

言いたかったことは、第4次で様々な検討がされてきたが、何ができて何ができなかったのかということを知りたい。

審議会ではこれまでの経緯を知っておかなくては議論が進まないと思う。

事務局： 審議会の趣旨としては竹島委員のおっしゃるとおりである。この会議は審議会であり、計画を検討、策定する組織ではない。

本来であれば、現計画の成果や進捗状況の資料を提示し、意見をもらうべきであるが、本日はそれができなかったため、まずは、委員の皆様から自由にご意見を伺うことにした。

次回からは資料をお示しさせていただき、現状についてご理解いただき、ご議論いただきたいと思っている。

梶野委員： 上牧町の現状と課題を考えなくてはならないと思う。

上牧町は資源が少ないといわれているが、今後は外にアピールしていかなくてはならない。上牧町も様々な取り組みをしていると思う。町外に上牧町の魅力をアピールしていくことに力を入れたほうがよいと思う。

江川委員： 第4次総合計画に交通体系図が記載されているが、現時点で整備済みなのか。

- 事務局： ①④は計画中止、⑤については一部整備することになっている。②③は整備済みである。詳細については、担当課に確認し、これ以外の整備予定があれば第5次総合計画に記載していきたい。
- 江川委員： 町営住宅について、第4次総合計画の30頁に用途廃止や譲渡と記載しているが、どの程度進んでいるのか。
- 竹島(正)委員： 腰を折るような発言になり申し訳ないが、第4次総合計画の進捗については次回報告するという事なので、その報告を受けて次回審議したほうがよいのではないかと。
- 東委員： 町営住宅の譲渡は行っていない。用途廃止について、町営第一住宅(木造)が古くなってきており、退去されたところから用途廃止し、撤去している。そのほかは変わらない。
- 福井委員： 先ほどからの議論についていけない。今日この場で、公募委員としてどんな意見を言えばよいのか。
- 中山会長： 本来であれば現計画の振り返りや基本構想の施策大綱の議論ができればよかったが、今回は資料が無いので漠然とした議論になっている。公募委員の方は専門的な立場ではないので、町民の立場から、総合計画についての意見や、普段暮らして思うことを自由に発言いただければと思う。次回以降は、町から提示される資料について、町民の立場から意見を頂ければと思う。
- 堀内委員： スケジュールでは、平成28年度について、各会議の部分が空欄になっている。平成29年1月に町長への答申、3月に議会への上程とあるが、基本構想作成のスケジュールがタイト過ぎると感じる。1年半しか時間がないが、どのように進めるのか。上牧町まちづくり条例で総合計画を策定すると規定しているため、平成29年度で第4次総合計画の計画期間が終了するからといって空白期間が無いように、急いで計画を策定する必要があるのか。審議会として、平成28年度中の策定が絶対条件かどうか、確認しておきたい。
- 中山会長： 同時に策定する総合戦略は、交付金の関係上、今年度中に策定しなくてはならない。一方、総合計画の基本構想については、今年度中に策定するスケジュールにはなっているが、多少時間的な融通は利くと思う。

- 事務局： 総合戦略は人口問題に特化した施策を盛り込む計画だが、基本構想に準用できる箇所もあると思う。  
タイトなスケジュールは事務局も認識しているが、事務局としては、必要に応じて会議の回数を増やしたり、庁内体制を強化したりするなどして、2カ年で策定できるよう対応していきたいと考えている。
- 堀内委員： 総合戦略については国との関係で今年度中につくらなくてはならないが、総合計画と総合戦略との関係で言えば、各論を総合戦略で検討し、その内容を総合計画に盛り込むのが現実的な進め方だと思う。  
1年半で総合計画を策定するとなると、策定委員会、専門部会、ワーキング会議等のスケジュールをしっかりと組み立てなくてはならないが、会議ばかり急いでも内容が伴わなくては意味が無く、審議会としても、答申は難しいと考える。
- 事務局： 基本的に審議会に諮る資料は、策定委員会等で策定する。限られた職員の中で検討することになるため、負担にはなるが、町を運営していく上で重要な計画であることから、職員に過大な負荷がかからないよう留意しつつ、粛々と進めていきたい。
- 堀内委員： まちづくり基本条例策定委員会でも様々な立場から発言があり、議論がかみ合わない経緯があった。限りある時間の中で策定するにあたっては、審議会の進め方や審議会の範囲、発言ルールなどを決めたほうがよいと思う。
- 中山会長： 一番よい方法は全会一致である。一致が図れない場合は、多数決も手法の一つだが、総合計画なので、できれば多数決で進めたくない。保留にして次回に再協議するなど対応策は考えていきたい。  
具体的に議論していかななくてはわからないが、総合計画は学校の統廃合などの具体的な計画を決める計画ではないので、基本的なところは全会一致決めていきたい。一致できない点があれば対応策をご相談させていただくことになると思う。
- 小島委員： 町民ワーキング会議や団体ヒアリング結果は資料としていただけるのか。事前に結果を提供いただきたい。
- 事務局： 町民ワーキング会議は回数を重ねて継続的に議論するため途中段階の結果報

告は難しいと思うが、団体ヒアリングについては終えた団体のヒアリング結果から随時ご報告できればと考えている。

町民ワーキング会議は他都市の事例などでは、3～5回程度開催するケースが多く、今回は5回に設定しているが、もう少し開催回数を減らすことも考えられるので、進捗状況を踏まえて出来るだけ早期に情報提供をしていきたい。

川本委員： 町内で暮らして思う町の良いところや課題など、具体的な意見から包括的に計画を策定することはできないのか。

中山会長： それぞれの立場から、ご自身の思うことをご発言いただければと思う。具体的なことでも総括的なことでもご発言いただいて構わない。

遠山委員： まちづくり基本条例策定委員会の公募委員を務めたが、そのときには公募委員として何を話せばよいのかわからなかった。そのため、今回、なぜ公募委員が含まれることになったのか、公募委員の役割、審議会の役割を明確にした上で、それぞれの立場から発言できるような運営を行ったほうが良いと思う。

第5次総合計画審議会から公募委員を入れたのは、第4次総合計画までのつくり方と大きく違う点だと思う。私としては、公募委員を入れて町民の意見を聞くことで、絵に描いた餅にならない計画にする効果があると思っている。なお、先ほど話があったが、第5次総合計画では振り返り・反省ができる工夫が必要と思う。

次回に向けて、様々な立場の参加者がいることを踏まえて、発言しやすいように配慮してほしい。

中山会長： 次回の審議会では、基本目標のたたき台とその根拠を示していただいた方が議論しやすい。また、重点戦略が10個並んでいるが多いと感じる。基本構想の段階ではもう少し減らしたほうが良い。

資料5の8頁の人口ピラミッドについて、平成22年時点のデータをまとめているがすでに5年経過している。60～64歳の方々は現在65～69歳になっており、第5次総合計画期間中には多くの方が後期高齢者になる。介護保険の改正など市町村の役割は増えているが、若いときに上牧町に越してこられた方は計画期間中に前期高齢者から後期高齢者になっていくことになり、上牧町においてはどこまで対策を検討するかが課題だと思う。高齢者が安心して暮らし続けるための取り組みは総合計画の重点的な戦略になる。



人口ピラミッドを見ると0～4歳が急速に減っており、10年後にはもっと減ると思われる。そのため、上牧町で子育てしやすい環境をどのように整えるのか10年間の重要な課題となると思う。

話を聞いていると公共交通の充実なども重要な課題になると思う。そのため、基礎データを踏まえて基本構想において重要だと思われる事項を何点かピックアップしてもらえると議論しやすいと思う。

計画構成イメージに縦軸が戦略計画、横軸が分野別計画となっているが、普通は縦軸は地域別計画をたてることが多い。地域別計画は考えないという方向でよいかご検討いただきたい。

本日は十分な議論ができなかったが、重点的に出して欲しい資料があれば事務局にお伝えいただきたい。

堀内委員： 資料についてはできるだけ、最新の資料にしてほしい。また、人口などについては、地域別のきめの細かい資料を作成してほしい。

これから高齢者が増えていった時、高齢者福祉の窓口である地域包括支援センター（生き生き対策課）1箇所では対応できなくなると思うため、将来的には窓口の増設など検討が必要になるかもしれない。その検討材料が必要である。

江川委員： 高齢福祉に関してどのような取り組みをされているのか情報をいただきたい。また、防災の取り組みについてもどのような取り組みをされているのか知りたい。

情報がないと疑問に思うこともできないため、情報提供していただきたい。

事務局： 参考資料としてご提供させていただく。

人口についても最新のデータを住民課に問い合わせて収集する。

中山会長： 委員からの要望には応えてほしいが、議題を意識しながら資料作成をお願いする。

事務局： 次回は10月末から11月頭に開催予定。

以上